令和5年度（2023年度）

学校運営自己評価・学校関係者評価　報告書

武雄看護学校　看護科・准看護科

評価対象期間　　令和5年４月1日～令和6年3月31日

１．学校運営評価の目的

看護師等養成所として教育水準の維持・向上と創意工夫のある教育の追及を図るため、学校運営評価について必要な事項を定め、評価結果を活用して教育を改善していくことを目的とする。

２．学校評価委員

学校委員氏名	所属
太田　光博	武雄看護学校　学校長
楢﨑　史彦	武雄看護学校担当理事
草野　謙一郎	武雄看護学校担当理事
山口　聡子	武雄杵島地区医師会　事務局長
末藤　智子	武雄看護学校　副学校長
吉川　優紀	武雄看護学校　看護科　　教務主任
平川　千里	武雄看護学校　准看護科　教務主任
西　涼子	武雄看護学校　看護科　　教務副主任
古賀　悠華	武雄看護学校　事務

３．学校関係者評価委員

学校関係者評価委員	所属	区分
持田　和幸	医療法人敬和会　持田病院　副院長	医師会担当理事
重村　剛	重村医院　院長	医師会担当理事
渡邊　成樹	佐賀県立武雄青陵中学校	教育に関する
松尾　竜一	医療法人整肢会　副島整形外科クリニック	卒業生
小野原　大介	白石保養院	卒業生

４．自己評価基準

各項目の達成度により、下記の5段階で自己評価する。

５（よい）：9割
４（ややよい）：7割
３（普通）：5割
２（やや不十分）：2割
１（不十分）：１割

５．学校関係者評価方法

自己評価の評価尺度（5段階）に対して、評価が適切か不適切かを評価する。

６．学校運営評価（自己評価）の内容

Ⅰ.教育理念・教育目的
Ⅱ.教育目標
Ⅲ.教育課程
Ⅳ.教授・学習・評価課程
Ⅴ.経営・管理運営
Ⅵ.入学
Ⅶ.卒業・就業・進学
Ⅷ.地域社会/国際交流

項目Ⅰ　教育理念、教育目的

総括

准看護科は令和4年度から、看護科は令和5年度のカリキュラム改正を機に両科で理念、目的、教育目標及び教育内容を構築した。
学校の使命である地域で活躍できる看護師・准看護師の育成を軸に、国が求める思考力・創造力を備えた看護職を育成する教育内容とした。
令和6年度からは学年別の到達目標を設定し評価していく予定である。

課題・改善策

その結果もふまえて次年度の教育課程に反映できるよう取り組んでいくことが今後の課題である。

小項目　Ⅰ-1

学習内容は、教育理念・教育目標と一貫性があり、社会の要請に応える内容になっているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅱ　教育目標

総括

　教育目標は学生便覧・実習要綱に明文化し、その内容については入学時オリエンテーションや実習オリエンテーションを通して学生へ説明している。教育目標の到達度については、終講試験や技術試験、実習評価、学校での生活に関することを教員間で共有し、課題がある学生に対してはその都度支援を行っている。
卒業時の到達度については、卒業判定に関わる科目の履修のみで評価を行っているが、令和６年度より学年別の到達目標を設定し評価を実施する予定である。

課題・改善策

学生自身も学年別到達目標に対して自己評価を行い、自己の到達度を確認できるように支援していくことが今後の課題である。

小項目　Ⅱ-１

卒業時において持つべき看護師・准看護師の資質を、教育目標に明示しているとともに、卒業時の到達状況を分析しているか。
■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅲ　教育課程

総括

　病院実習では、専用のカンファレンスルームを設けてもらい担当領域の専任教員及び実習調整者が、ラウンドやカンファレンスに参加し実習指導者と共に指導を行った。病院外の施設実習においても、スペースを確保していただき、カンファレンスの実施ができた。今後、全学年の電子教科書の導入が決定しており、実習においてもICTを活用した学習支援を整備していく。実習目標が達成されるような実習環境は、ほぼ整っている。
　実習指導者と教員の役割に関しては実習要綱に明文化されており、実習指導者に周知を図り実践している。また、実習要綱は、毎年全領域の見直しを行っている。
　実習開始の約1カ月前には実習相談会を行い、終了後には反省会を実施している。日々の実習においても、学生の現状、指導に関して各病棟・施設の指導者と教員間で話し合いながら指導を行っている。
実習指導体制強化については、年に2回実習指導強化委員会が研修会を開催

している。（今年度は11月・12月に開催）

実習病院同意書に、個人情報保護・安全性の確保・受持ち患者を希望されない場合も療養上の不利益をおよぼさない事を明記し、同意を得て学生の受持ち患者になる事を同意してもらい実習を行った。また、学生は実習における個人情報保護に関するもの、SNSに関する同意書を記載し実習に臨んでいる。

現在実習要綱にある、実習病院同意書の運営・管理および実習同意書に、受持ち患者に対する倫理的配慮について明示しており、その内容に添って運用できており、受持ち患者様から実習中および実習終了後も倫理的な事柄に関連した苦情の申し立てはなかった。

インシデント・アクシデントについては講義で履修して臨み、実習前には実習オリエンテーションで説明し実習に臨んでいる。インシデント・アクシデント発生時の対応・報告ルートに関しては実習要綱に記載しており、報告ルートの統一化を図っている。実習中はカンファレンス前にインシデントの有無について確認し、インシデントが生じた場合はその場で報告する事で教員・指導者・学生間でインシデント事例を共有している。学生が起こしたインシデントやアクシデントについては、速やかに専用のヒヤリハット報告書に記載し、今後の防止策まで検討し教員間及び学生間で共有を行ってる。

今年度は9月に、新任教員研修を開催し、『看護学生の支援に必要な教育の考え方』をテーマとして取り上げ職場内研修を実施した。90％以上の教員が参加できた。

近年はオンラインでの講習会が浸透し、積極的に参加ができている。オンデマンドにより、リアルタイムに参加できなかった教員も学会等の視聴ができている。また、受講した教員は、伝達講習を通して他の教員と学びを共有している。

新たな実習施設で臨床研修を行っているが、研修後の報告ができていないため、全職員に周知できていない。また、まだ参加できていない教員もおり、今後より多くの教員が参加できるよう計画していきたい。

前期には半数程度の参観ができていたが、後期には実施できておらず、次年度には全教員が公開授業や参観をし、授業改善につなげていきたい。

課題・改善策

教員数が不足しているため、教員の専門性を活かした実習配置はできていない。

より多くの実習指導者に参加していただけるような研修テーマ、開催時期の選定が課題である。

今後は倫理的配慮に関するガイドラインを作成することが必須の課題である。実習前後の安全教育については実施できていないため計画していく。

小項目　Ⅲ-１

実習目標が達成されるよう実習環境が整備されているか。

■自己評価：３　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-2

実習指導者と教員の役割を明確にし、互いに協力し実習指導にあたる体制があるか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-3

実習時の患者への倫理的配慮を励行しているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-4

実習時のｲﾝｼﾃﾞﾝﾄｱｸｼﾃﾞﾝﾄ等を分析し、学生指導に活かしているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-5

学校の抱えている課題を踏まえた職場内研修を行っているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-6

学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元する仕組みがあるか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-7

教員が計画的に臨床看護研修に参加できるよう支援しているか。

■自己評価：３　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅲ-8

教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。

■自己評価：３　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅳ　教授・学習・評価過程

総括

授業計画（シラバス）は各科目ごとに作成しており、ホームページ上で閲覧できるようになっている。冊子にして学生がいつでも閲覧できるようにすることを今後検討していく必要がある。

看護科・准看護科の両科共に２カ月以上前に学生はタブレット上で時間割表の確認がとれるようにしている。また、勤務表を作成する施設宛ての時間割も配布している。急な予定変更は、HR等で事前に伝えるように工夫している。

令和4年度より各領域別で授業案や実習指導案を検討している。授業評価の分析や指導方法の改善は、各領域担当者で施行している状況であり、全教員の2回以上の授業公開はできていないため、可能な範囲で計画していく必要がある。

看護科・准看護科の両科共に単位取得および科目履修に向けて、成績不振者には個別指導や面談等で対応している。成績不振者に対して自己分析の結果に基づいた個別対応や定期的な勉強会は実施できていない。

科目単位取得や科目履修の条件は、講義開始時から学生に周知し説明している。技術演習や実習の評価基準については、毎年の検討・修正を継続していく。

外部講師を含めた授業評価アンケートの実施ができている。

課題・改善策

新カリキュラムのシラバス内容についても学生の反応をみながら見直していく必要があると考える。

新カリキュラムによる進度に合わせた評価基準の検討・見直しが必要である。

今後は、授業全体の評価をどのように公開して授業改善に繋げていくのか検討していく必要がある。

小項目　Ⅳ-１

授業計画が作成され、教育課程との整合性があり、学生が授業内容を理解できるようにしているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅳ-2

効果的な授業運営を図るため、適切に時間割を調整しているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅳ-3

授業内容や指導方法が学生レベルにあうよう工夫・改善しているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅳ-4

（看護科）

学生の単位取得にむけた支援を実施しているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

（准護科）

全科履修に向けた支援を実施しているか。

■自己評価：3　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅳ-5

学生に修了認定のための評価基準と方法を公表しており、かつ、評価について公平性・妥当性が保たれているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目　Ⅳ-6

学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し、授業の改善に努めているか

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅴ　経営・管理運営

総括

医師会立の看護学校として、地域で活躍する看護師・准看護師の育成を軸とした教育目標を設定し、教職員の共通理解を図って取り組んでいる。学校のビジョンを見据えた組織目標を明確にする必要があり、次年度に向けて策定中である。

今年度の中間評価より自己評価の方法を見直した。昨年度までは学校評価

委員の数名で自己評価を実施していたが、関わる教職員すべての意見が反映されるべきと考え、全教職員が個人で評価した平均をもって自己評価を決定した。自己評価は引き続き、学校関係者評価委員、学校担当理事よりご意見をいただき学校ホームページ上に公表する。

管理職のリーダーシップのもとチーム力を発揮し問題解決に取り組んでいる。令和4年度より教員の配置を担任制から担当制にしている。また、講義の担当に関しては、可能な限り領域別の人員配置を行っている。定期的に教務会議や全体会議を開催し、重要事項の検討及び共通認識の場としている。

受験応募者数の確保に向けてオープンキャンパスや高校訪問、進路ガイダンスに取り組んでいる。

看護師国家試験および准看護師資格試験合格に向けて、対策委員を設け全員合格に向けて臨んでいる。模擬試験、外部講師及び教員による特別講義の実施、個別対応により学習支援を強化している。

入学時オリエンテーションで学費の減免に関する特待生制度、経済面で修学困難者には育英金・奨学金制度について説明し学校継続ために奨学金の日程、カウンセラーの紹介を行っている。また学生の学校生活・学習・実習などで気になる学生は、面談を行い必要時カウンセリングを勧めている。現在カウンセリングは月に2回実施日を設けており、学生掲示板で告知し朝のHRで、さらに紹介している。カウンセリングを受ける際には、プライバシーに配慮した専用の部屋を用いて実施している。

感染対策マニュアルの見直しを行い感染状況に即した内容に改正し実施確認し今後の学校生活に備えている。また学校登校後、体調の悪い学生に関しては、必要時病院受診を勧め、一時的な経過観察で良い場合は、休養室を提供し学生を休ませている。

禁煙については医師会敷地内および学校敷地内は全面禁煙となっており実践している。

看護科・准看護科ともに1年次に外部講師（医師）を招き、防煙教育を実施している。学生の健康診断として年に１回定期健康診断の実施及び実習前にレントゲン検査を実施している。定期健康診断で要精査の学生には、医療機関の受診を促しその結果を確認している。

予算計画、年間事業計画に基づき適切に行っている。必要時は学校運営会議や理事会等で協議している。授業料について、指定の期日に引落しがなされていない学生には月末までの納入を促している。滞納がある場合には個別の相談に応じ、適切に対応している。

個人情報保護に関しては、学則・細則及び実習要綱の中で規定を明文化している。個人情報漏洩につながるような事案があった場合は、学生と教員で原因・対策を検討し個人情報保護に務めている。

ハラスメント事項については、運営委員会や教務会議を通して対策を講じ

ている。
　行政の指導のもと危機管理マニュアルは作成している。マニュアルの内容は問題なく実施ができている。
　避難訓練は、准看護科１年生を対象にして９月に実施した。消防署の指導の下、避難方法及び教職員の役割りを確認した。
　災害時の備えに関しては、使用期限の確認を行い有事に使用ができるように備えている。
　学生の意見や要望を運営に反映していくために『学生の声』のシステムを活用している。『学生の声』により寄せられた意見や要望は、運営委員会や教務会議を通して対策を講じている。また、『学生の声』に寄せられた意見・要望は、1回／月学生に公開し改善策を提示している。
　耐震基準はクリアできている。スロープの設置も完了している。エレベーターの設備はないが、2階建て構造において、車いすでの昇降は人力を用いて安全に移動が可能である。
　指導ガイドラインに沿って、教材・施設設備の環境は整備を行っている。新カリキュラムになりタブレットを用いた学習が開始となった。
　学生の福利厚生に関しては、健康診断費、保険料等を予算に計上している。校内施設・設備は、時間外や長期休暇中の利用を可能な範囲で認めている。
　蔵書は指導ガイドラインに沿った冊数を揃えている。年に2回蔵書点検を実施し、適切に管理している。内容については、カリキュラムと照らし合わせ、計画的に入れ替えを行っていく。
講義や実習に必要な文献の選択や活用方法は支援を行っているが、利用促進のための情報提供などは行っていない。学習環境充実委員会を中心に新刊案内等の情報発信を行い、図書室の利用につなげていく。
　演習を行うために実習室に必要な面積・指導ガイドラインに定められた備品・物品を整備・確保し活用している。また年に2回定期備品点検を行っており、不足分は随時補充できている。経年劣化している備品などは、計画的に購入計画を立て購入し演習に支障が無いように行っている。
学生の技術演習に関しては、登校日に限らず実習室を開放しており、学生の希望する日に演習ができるよう、技術チェック等が両科で重なる時期には練習計画を立て、有効に利用できるよう調整している。
　ホームページを中心とした広報活動を行っている。入試情報、カリキュラム、学校生活の動画等、受験生が求める内容を掲載できている。
また、学生募集のポスターを作成し、医療機関、高校、近隣施設へ配布した。卒業生からの相談等には個別に対応している。

課題・改善策

今後の取り組みとしては、入学者の出身校に学生生活の様子を報告するために看護の日を利用して手紙を書くなどの案があるため、今後検討して計画を立てていく。

今後は、ハラスメントを未然に防ぐために、定期的な実態調査や専門家による研修が必要である。

校内のネット環境も整備されてICTを効果的に活用した教授に努めていく必要がある。

小項目Ｖ-１

学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつ、その目標が教職員に理解されているか。

■自己評価：３　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ｖ-2

学校運営評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知するとともに、外部にも公表しているか。また、評価結果をもとに改善計画を策定しているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ｖ-3

管理職のリーダーシップのもと、両科主任がそれぞれの部署をまとめチーム力を発揮し問題解決に当たっているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ｖ-４

より多くの応募者を確保することに努めているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ｖ-５

国試・資格試験の合格率が100％となるよう、教職員一丸となって取り組んでいるか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-6

経済的、精神的側面からの学業継続支援体制が整い、効果的に活用しているか。

■自己評価：5　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-7

学生の身体的側面の健康確保に努めているか。

■自己評価：5　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-8

予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-9

学生や教職員等の人権・個人情報の保護について十分な対策がなされているか。また、学生、教職員に対しそれらの徹底を図っているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-10

災害など非常時の危機管理体制が整備されているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-11

学校運営に学生の意見が反映されるように努めているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-12

施設･設備の安心・安全が確保されているとともに障害者の利用に配慮された構造になっているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-13

教育目標達成に必要な施設設備及び教材が整っているか。また学生の自主的な学習の場が確保されているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-14

学生のための福利厚生施設・設備は整っているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-15

図書室は利用しやすく学生に十分活用されているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-16

実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品設備が整い、十分にその機能を果たしているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅴ-17

学校の存在を周知するため、積極的な広報活動をしているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅵ　入学

総括

入学前説明会を1月～3月にかけて、各科2回ずつ実施した。
入学前課題についても事前に提示し、入学後の学習に備えている。
新入生には早い段階で個人面談を計画し、支援が必要な学生の把握に努めている。

小項目Ⅵ-1

入学生への支援を行っているか。

■自己評価：4　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅶ　　卒業・就業・進学

総括

　卒業生のホームカミングデイについてはまだ開催できていないが、次年度より卒業生の近況報告や、在校生へのキャリア開発支援もかねて計画していく。また卒業生が必要とする支援、相談などは随時行っている。

　学生の就職に関しては必要に応じて対応している。近年は管外や県外への就職希望者も増えているが、医師会立の看護学校の設置目的を再確認しながら、地域で活躍できる看護職の育成に努めている。また、入学者向けの県内就職案内一覧は入学時オリエンテーションにて案内し、希望者が閲覧できるように整えている。在校生に向けては、県内就職案内が閲覧できるよう掲示している。

学生の就職に関しては必要に応じて対応している。医師会立の看護学校の設置目的を再確認しながら、地域で活躍できる看護職の育成に努めていきたい。

小項目Ⅶ-１

卒業生への支援を行っているか。

■自己評価：３　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅶ-2

卒業生の県内就職率を高めるよう努めているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

小項目Ⅶ-3

進学、就職などの進路に関して学生の相談に十分応じているか。

■自己評価：４　　■；学校関係者評価：適合

項目Ⅷ　地域貢献

総括

　５月１２日の看護の日には、看護科１年生により武雄町内の清掃活動を行った。また、昨年同様『ナイチンゲールの灯　平和運動』にボランティアで参加し、住民の方々の応援を受けて灯のリレーができた。

令和6年度には、佐賀県で開催される『全国障害者スポーツ大会』に競技者の支援として学生が参加する予定である。

課題・改善策

リカレント教育としての講義の公開については、実施できていない。令和６年度からの実施に向け計画を行う。さらに、令和6年は学校祭に地域の方々が参加できるように取り組んでいく予定である。

小項目Ⅷ-１

地域社会の一員として、地域への貢献・奉仕活動・連携の工夫を行っているか。

■自己評価：３　　■；学校関係者評価：適合